

JAERA

News Letter

Oct/26/2006 Vol1.No.8

消費者に直接「環境に優しい修理」勧める

全国各地で「リサイクル部品」普及活動

10月2日から1ヶ月間

日本ELVリサイクル機構(酒井清行代表理事)は、10月の「3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進月間」に合わせ、10月2日から1ヶ月間を「自動車リサイクル部品普及活動月間」と定めて全国各地で「自動車リサイクルのすすめノボリ」を掲出するとともに、一般消費者にも直接「リサイクル部品普及チラシ」を配布、リサイクル部品を使った「環境に優しい修理」を訴えた。全国地方14組合、部品流通団体14団体920社が参加した。



JR新橋駅前でチラシを配布し終わったELV機構本部担当一堂と特別参加の経済産業省自動車課の方々(右から3人目 中石室長)

ELV機構本部は、推進月間初日の10月2日午後、JR新橋駅頭でリサイクル部品普及チラシを配布した。酒井代表理事、早川監事、清水理事部品流通部会長を筆頭に、有原西東京自動車リサイクル協会、部品流通団体の針ヶ谷テクルスネット会長、羽鳥日本トラックリファインパーツ協会会長、本部事務局から3名の計9人に加え、経済産業省自動車課から中石リサイクル室長、呉村課長補佐、水口課長補佐、荒木課員の4人が特別参加、白い作業衣に「自動車リサイクルを推進しましょう」

と刷り込んだタスキを掛け、駅の乗降客にチラシを配った。配布中の酒井代表や中石室長らは新聞・雑誌社の取材人に取り囲まれ配布中断の場面もしばしば。

当日は午前中が小雨模様だったが配布時間には薄日もさす中、チラシを手渡した。中には「こうした部品はどこで取り扱っているのか」など具体的な質問を問い掛けてくる客もあり、一時間で1000枚弱のチラシを配布、全員で記念撮影を行い無事終了した。

北自協とエス・エス・ジー

北海道札幌駅 上天气に恵まれチラシも好評

北海道では絶好の天候に恵まれた10月2日、北海道自動車処理協同組合(南可昭理事長)と地元部品流通団体(株)エス・エス・ジー(浜田泰臣社長)の合同部隊総勢23名がJR札幌駅前で行く人々にチラシを配布した。

「自動車リサイクル推進ノボリ」に「廃車買取りノボリ」も掲げてのPRに、中には、「他の人にも渡したいから」と複数枚数のチラシを持って行く人もいて上じょうの滑り出し。特に駅前にはタクシー乗り場があるところから駐車中のタクシー運転手さんにも配布、大変好評だった。2時間頑張りで1500枚を配布した。



お疲れ様！配布も終わりホッとしたエス・エス・ジーと北自協の皆さん

「北九州エコタウン」メンバー

小倉駅に団体・会社・市が結集

10月7日の第1土曜日をチラシ配布日とした。「北九州エコタウン」の面々。北九州ELV協同組合(大里茂夫理事長)が、同計画をエコタウンの事業主である北九州市に持ち込んだ結果、関係者が揃って皆でやろうーということになり、ELV協同組合と西日本オートリサイクル(株)(関和己社長)に北九州市環境部環境産業政策室も加わり、自治体ぐるみの活動に発展した。

当日は午後からJR小倉駅歩行者デッキに総勢21人が参加、「自動車リサイクル推進ノボリ」組と「チラシ配布」組に分かれ、交代で2時間に亘り2000枚若を配布、リサイクル部品の街頭PRを行った。この模様は地元ケーブルTV「ジェイコム北九州」が取材、放映された。

またこの催しについて前日の6日、北九州ELV組合の尼岡理事(前理事長)が地元FM局「FM KITAQ」の15分番組に出演、リサイクル部品の活用が環境への負担軽減に役立つことなどを熱く語った。

なお、北九州エコタウンで11月21日から3日間開催される「エコタウン祭り」にもELV協組が参加、来場者に「リサイクル部品普及チラシ」を配布する。



小倉駅でTV局の取材も受けて張切る北九州エコタウンのメンバー

静岡県自動車解体業協同組合

県内3箇所に別れてチラシを配布

静岡県自動車解体業協同組合(青木勝幸理事長)は、東西に長い同県の地勢を考え、10月10日の火曜日、県央の静岡市、県西の浜松市、県東の富士市の3箇所に組合員が分かれて「リサイクル部品普及キャンペーンチラシ」を配布した。

静岡では同市の「おでん祭り」とぶつかり、大勢の市民が行き交う目抜き通りの地下アーケードで青木理事長始め8人の組合員がチラシを配布、「環境に優しい自動車修理」を呼びかけた。

浜松と富士でも「自動車リサイクル推進ノボリ」を押し立て、駐車中のドライバーなどにチラシを手渡した。配布枚数は2時間で合計3000枚と全国ではトップの数字となった。



静岡市街の地下アーケードで青木理事長(左端)自らチラシを配布

NGP自動車リサイクル事業協同組合

本部職員だけで2000枚配布

連休明けの10月10日、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合(青木勝幸理事長)は、静岡県の組合と兼務の青木理事長不在の中で、宮地専務理事を筆頭に職員10名だけの「リサイクル部品普及キャンペーンチラシ」配布を行った。

場所は本部事務所近くのJR品川駅駅頭。東海道新幹線乗り入れ以来、乗降客が東京・新宿・渋谷に継ぐ大人数に

▼膨れ上がった駅だけに、チラシも飛ぶように捌け、2時間の配布で2000枚を越えた。



乗降客でにぎわうJR品川駅でチラシを配るNGP事務局の皆さん

その他の団体の活動報告から

エコラインとビッグウエーブ

(株)エコライン(岡正雄代表)と(株)ビッグウエーブ(股部厚司社長)は、チラシの配布は会員企業の個別対応とするとともに、11月一杯まで、両者合同による「部品登録キャンペーン」を実施。安定した部品供給の確保を目的に両社加盟会員を対象とする在庫登録コンテスト。

熊本県再利用パーツ協同組合

熊本県自動車再利用パーツ協同組合(緒方義男理事長)は、10月のリサイクル部品普及キャンペーン週間中に地元熊本新聞に折込広告としてキャンペーンチラシとして1000部を配布。▶

自動車補修部品研究会

自動車補修部品研究会(清水信夫会長)の会員(株)ユーパーツ(清水信夫社長)は、11月8日埼玉県埼玉工業大学で開催される「環境と物作り展」に参加、リサイクル部品の展示と解説を行う。

TCR

TCR(河村二四夫会長)会員、河村自動車工業(株)(河村二四夫社長)は11月12日に県の小瀬陸上競技場で開催される県民祭りに参加、1000枚の「リサイクル部品普及キャンペーンチラシ」を配布する。

テクルスネットワーク

テクルスネットワーク(針ヶ谷昌之代表)は、会員各事業所に対し10月の納品書、請求書から「リサイクル部品普及キャンペーンチラシ」を同封することを指導。◀

「ELV在庫減少」だが「売上増伸」 活路開拓事業の基本調査纏る 「努力する解体業」浮彫りに

ELV機構は平成18年度の重点事業として、活路開拓事業のための「アンケートによる会員実態調査」を進めていたが、このほどまとまり10月26日開催の第2回委員会に報告された。(まとめの詳細は11月発行の日本ELVニュースに掲載)

「フロン類回収量」に関する調査実施

再資源化協力機構からELV機構が受託

日本ELVリサイクル機構は、このほど再資源化協力機構から「フロン類回収量に関する調査事業」の委託を受けた。同機構からの事業委託はこれが初めてで、10月下旬から調査開始に取り掛かる。

自動車リサイクル法では、①フロン類②エアバッグ類③シュレッダーダストの3品目が指定再資源化物品として、リサイクル料金の支払い対象になっている。

これまでELV機構としてエアバッグ類の適正・適切な対応方法を中心に会員の皆さんに情報提供してきたが、最近特にフロン類に関して、回収作業を進めているにも関わらず、自動車メーカー等が規定した1台当たりの基準回収量に満たず、支払いが減額されているケースがある。解体業者はほとんどがフロン類回収業者としての登録も行っており、フロン類回収業務の比重が高い。それだけに原因不明で回収量が低いということは解体業者にとっても放置できない課題だ。▶

▼この課題は自動車再資源化協力機構(自再協)としても重視しており、その対策を検討しているとのことから、当ELV機構としても協同で調査を実施することにした。想定される原因としては①回収機器が老朽化のため吸引能力が低下またはメーター等の故障②回収用ポンペのストップバルブの取扱の問題③使用済み自動車を引取り業者から引取る際、フロン類がほとんど残っていないケース等が考えられる。今回の調査協力により、的確な対策が解明できれば、自動車リサイクル法の遵守向上とフロン類回収に置ける収益性の改善につながり、解体業者にとってもメリットは大きいといえる。◀

会員の皆様にお願
「フロン類回収量」に関する
調査にご協力ください

フロン類回収に関する状況調査

1. フロン類回収機はどのメーカーのものを使用されていますか？

使用されているものをすべてお答えください。

また、その購入時期(複数使用されている場合は、古いもの)もお答えください。

- ① デンゲン(台/ 年頃) ② アサダ(台/ 年頃)
 ③ オクダ(台/ 年頃) ④ ヤマダ(台/ 年頃)
 ⑤ ロビネア(台/ 年頃) ⑥ その他()(台/ 年頃)

2. [上記1.で複数台数を使用している場合]

フロン類回収機をフロン種別(CFC12 or HFC134a)毎に使い分けていますか？

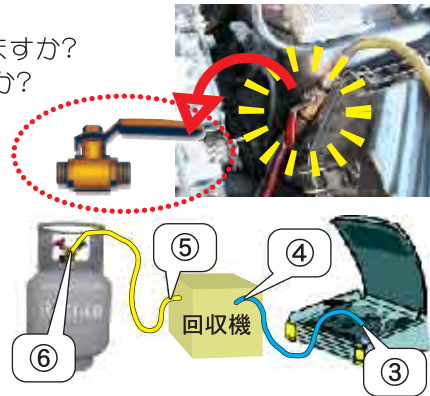
- ① 使い分けている。 ② 使い分けていない。

3. 回収完了時やボンベ交換時にストップバルブは使用されていますか？

使用されているのであれば、どの位置に取り付けられていますか？

※ストップバルブとは、レバー等を回転させることでホース等からガスが漏れるのを防ぐ機能があるものをいいます。

- ① ストップバルブはない
 ② ストップバルブはあるが使用していない
 ③ 車両接続部に使用
 ④ 車両～回収機をつなぐホースの回収機側に使用
 ⑤ 回収機～ボンベをつなぐホースの回収機側に使用
 ⑥ ボンベ接続部に使用



4. 回収作業において2度引きは実施されていますか？

実施されているのであれば、何分程度間隔を開けて実施されていますか？

- ① 実施している(作業間隔: 分程度) ② 実施していない

5. ボンベ交換時等にパージを行っていますか？

- ① 1日の作業が終了するごとにパージを行っている
 ② ボンベを交換する時にはパージを行っている
 ③ パージ機能はあるが使用したことはない
 ④ 回収機にパージ機能がない

※パージとは、回収機内に残っているフロン類を強制的にボンベに移す機能です。メーカーによっては「リフレッシュ」という言い方をしているケース等もあります。

6. 自社で引き取る時にはフロン類がほとんど残っていないというケースがありますか？

あるということであれば、引取車両の何パーセント程度がそのような状態ですか？

- ① ある(%) ② ない

7. [上記6.で①と回答した場合] 考えられる理由はなんですか？

- ① 仕入元(整備業者等)で事前にフロン類が抜かれてしまっている。
 ② 事故等でフロン類が漏れてしまっている。
 ③ その他()

——— 会員の皆さんにお尋ねする質問用紙です ———

◆北海道の道央、三笠市の大手解体工場が丸ごと売りに出された。希望価格はざっと15億円。新規参入の業者で元は廃棄物処理が本業であったという。自動車リサイクル法制定以来、廃棄物の中でも付加価値の高いELV処理に目を着け解体業に進出した企業が多い。限られたELVが奪いあいとなり敗れた業者も多いと聞く。

◆しかし、今回の「実態調査」は、「努力するものは報われる」という一つの回答も出している。これからの「活路を開く企画」に期待したい。

有限責任中間法人
日本ELVリサイクル機構

JAERA ニュースレター

発行日：2006年10月26日

発行所：〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2

一美ビル5F

TEL.03-3519-5181 / FAX.03-3597-5171